

## 日仏薬学会 50 周年記念講演会 開催のお知らせ

日仏薬学会(la société franco-japonaise de pharmacie)は本年創立 50 周年を迎えます。記念事業として、“新型コロナウイルスと闘う”と題する講演会を、日仏会館ホールにおいて、オンサイト開催します\*。

本会は『日仏薬学研究者、薬剤師の科学、技術の交流を目的』として日仏会館傘下の 16 番目の学会として活動を続けてきました。昨今の新型コロナウイルス感染症のパンデミックに対して、世界の薬剤師は新型コロナウイルスの治療薬処方や PCR 検査活動、製薬企業における創薬活動などに貢献しています。本講演会では 2 つの話題、一つは PCR 検査法の開発と課題と対応について、PCR 検査法の独自開発を行い、大学 PCR センターで検査を実践している木下博士により、二つ目は開発困難とされた mRNA ワクチンがわずか 1～2 ヶ月という超スピードで開発できた 3 つの科学技術、ノーベル賞相当の技術と評価されている技術ですが、“mRNA のキャップ構造の発見”、“mRNA シュードウリジン修飾”、“リポソーム技術”のうち、キャップ構造の発見をされた古市博士により、mRNA コロナワクチンへの応用の軌跡について話題提供をいただきます。

皆様にはよろしくご参加のほどをお願いいたします。

なお、COVID-19 感染拡大防止のため、\*参加者数に上限 (70 名) を設けております。

**原則、参加申し込み受付順。**また感染拡大防止策 (マスクの着用、手指消毒、必要時以外の会話を控えること、ソーシャルディスタンスをとる等) をお願いいたします。

## 日仏薬学会 50 周年記念講演会開催のお知らせ

記

日時：2022(令和4)年6月26日(日) 13:30～16:45

会場：日仏会館1階ホール

内容：記念講演2題

1. 座長：小椋康光 千葉大学大学院薬学研究院教授  
演題：「新型コロナウイルス検査法とPCR検査の現場対応と課題について」  
演者：木下健司 武庫川女子大学PCR検査センター責任者  
(一社)生命科学教育研究所代表理事
2. 座長：市川厚 日仏薬学会会長 京都大学名誉教授  
演題：「キャップ構造の発見と、mRNA コロナワクチンへ応用の軌跡」  
演者：古市康弘 新潟薬科大学客員教授 (株)GF Mille 最高顧問

参加費：無料(あらかじめの参加申し込みが必要です) 参加者数に上限があります。

日仏薬学会ウェブサイト <http://sfjp.umin.jp/>

メールアドレス：sfjp1972@gmail.com からお申し込みください

付記：

1. 日本薬剤師研修センター2単位付与  
ご希望の方はあらかじめ  
(1)申込時に薬剤師免許番号をお知らせいただく  
(2)あらかじめご自身のPECS(薬剤師研修・認定電子システム)への登録と  
講演会当日にQRコード持参(紙に印刷してください)をお願いいたします。  
(スマホ画面では読み取りできない場合があります)  
(3)免責事項：日仏薬学会は、はじめてPECS利用の講演会を開催いたします。  
準備は十分にいたしますが、当方の不手際での「単位不認定」があった場合  
でもご容赦くださいますようお願いいたします。
2. なおCOVID-19感染拡大防止のため、参加者に上限を設けております。  
また感染拡大防止策(マスクの着用、手指消毒、必要時以外の会話を控える、  
ソーシャルディスタンスをとる等)をお願いいたします。  
発熱者、体調不良の方のご参加はご遠慮ください。

# 50<sup>th</sup> 日仏薬学会 講演会 新型コロナウイルスと闘う —mRNAワクチンとPCR検査技術開発—

日時：6月26日（日）13:30～16:45

場所：日仏薬学会 ホール（\*コロナ対策事情により人数制限有り）

共催：日仏会館 後援：日本薬剤師会、日本病院薬剤師会、東京都薬剤師会  
薬剤師認定シール2単位

## 講演1「新型コロナウイルスPCR検査法の新規開発—検査の現場課題と 対応を中心として—」

木下健司（生命科学教育研究所理事長）

## 講演2「キャップ構造の発見と、mRNAコロナワクチンへの応用の軌跡」

古市泰宏（株）GF/Mille・創業社長・現最高顧問



新型コロナウイルスの流行に対し、人類はPCR検査法の改良、ワクチンや薬の開発等で闘っている。新型コロナウイルス(SARS-Cov-2)はRNAウイルス、RNAからDNAを合成してのちにPCRを行うRT-PCR法で検出できる。PCR検査が感染症検査に初めて用いられたが、検査法は正確・迅速・多数検体処理が望まれる。木下博士は唾液採取・安定保管・非感染化に適したデバイスとRT-PCR検査法を開発し、大学PCRセンターで実践中、課題と対応が述べられる。

新型コロナワクチンの成功は、古市博士がmRNAのメチル化とmRNAの働きと安定性を制御するmRNA先端部にある「キャップ」構造を発見したこと、この業績と米国カリコ博士のmRNA化学修飾による安定性と機能活性化、ワイズマン博士のmRNA医薬品化の業績と連携・総合化による。キャップ発見からmRNAワクチン開発に至る研究軌跡が述べられる。